

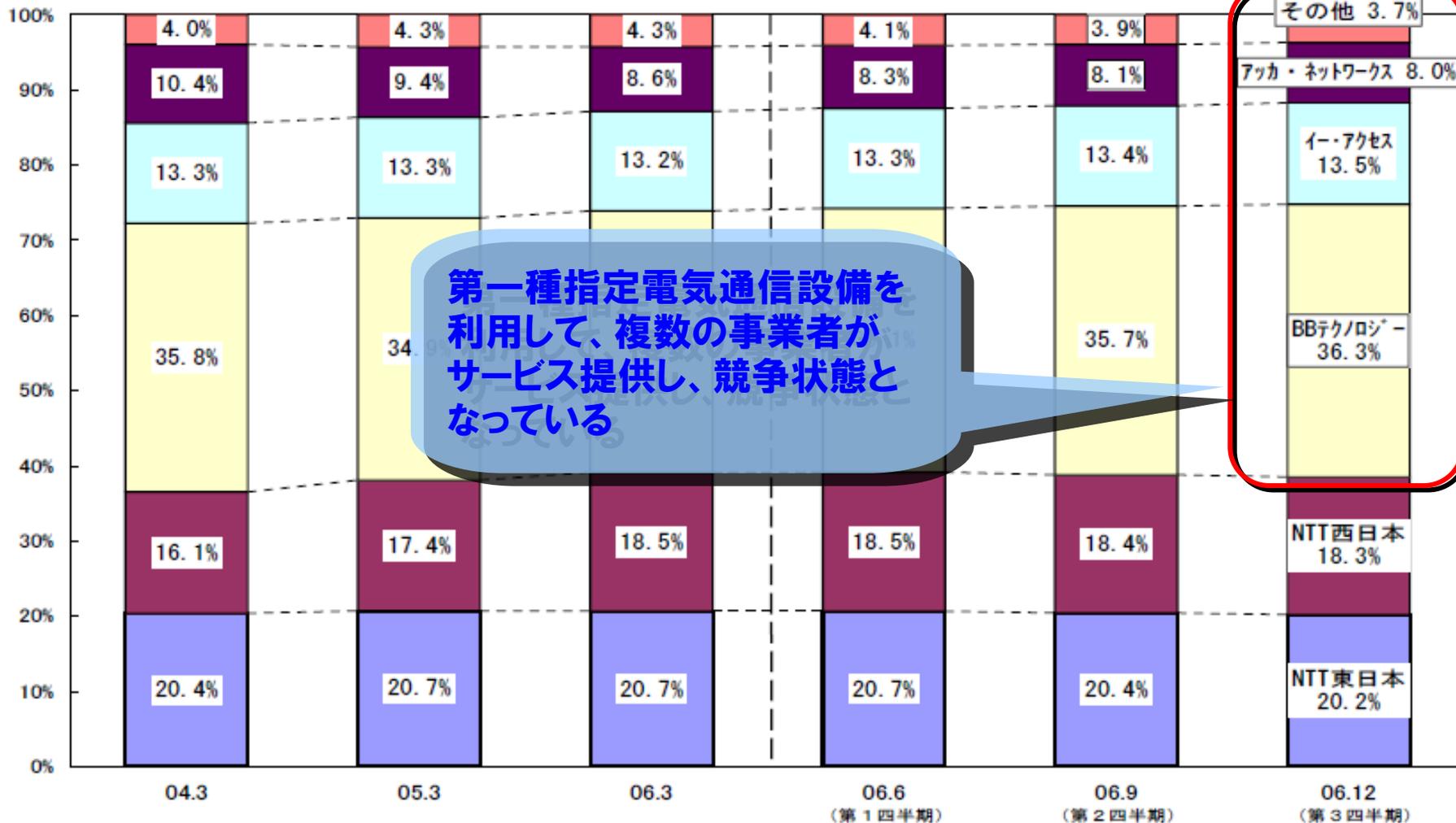
光ファイバの8分岐単位での接続における 競争阻害性について

DSL市場とFTTH市場の競争状況

(2006年度第3四半期(12月末))

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070323_7.html

DSL契約数の事業者別シェアの推移 (全国)



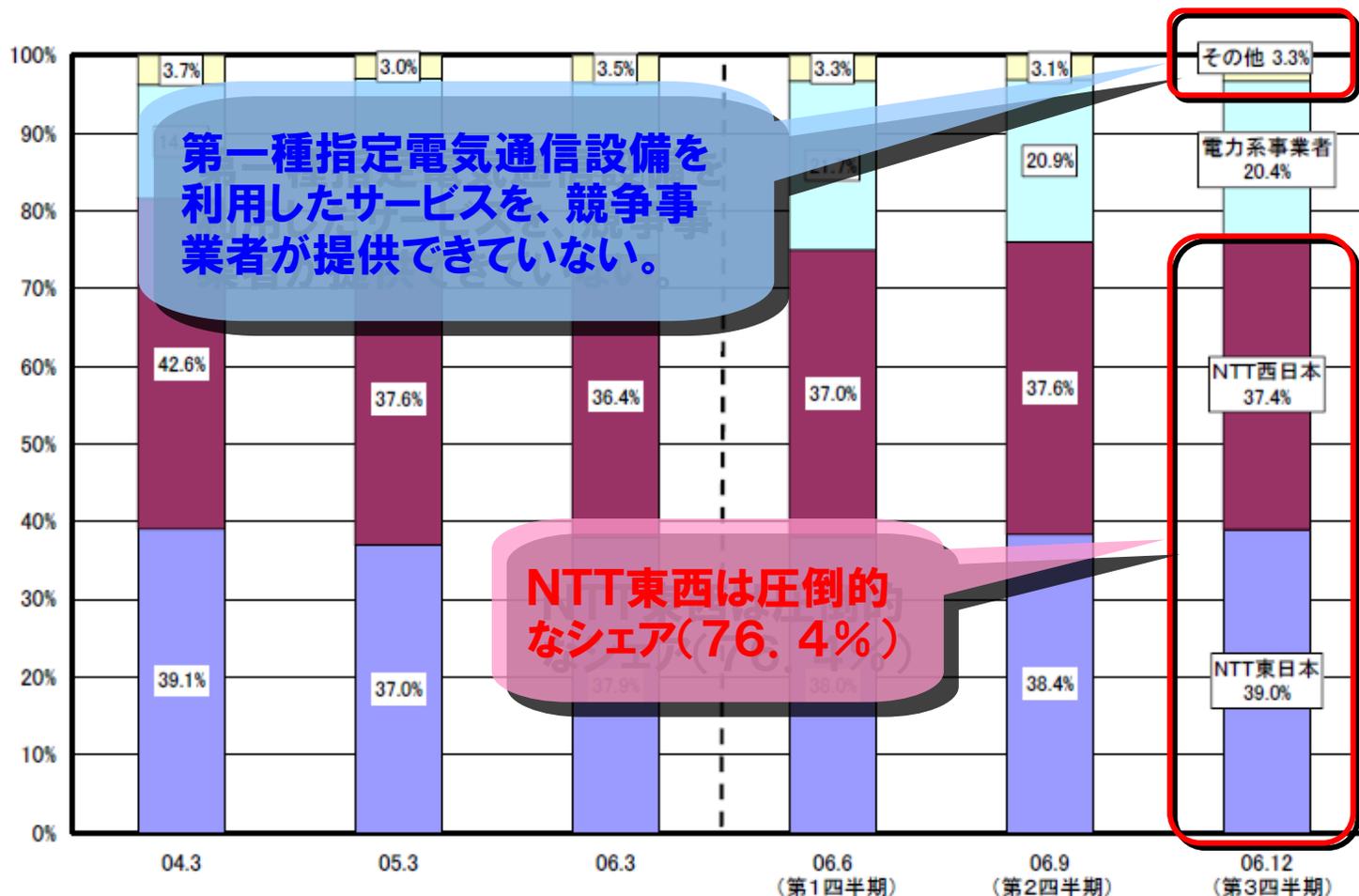
第一種指定電気通信設備を利用して、複数の事業者がサービス提供し、競争状態となっている

DSL市場は競争状態にある

(2006年度第3四半期(12月末))

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070323_7.html

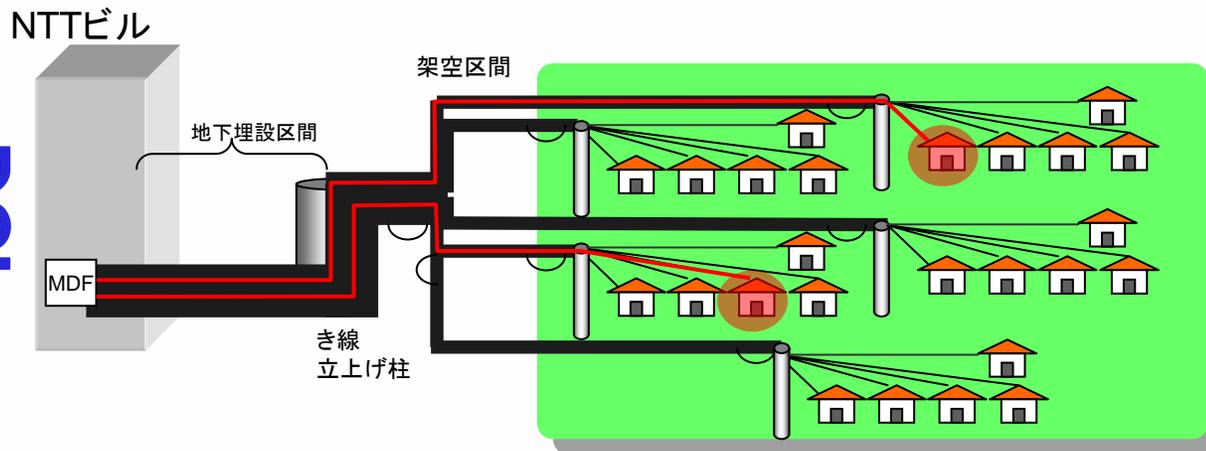
F T T H契約数の事業者別シェアの推移 (戸建て+ビジネス向け)



FTTH市場ではNTT東西の独占が拡大

FTTHサービスを提供するための接続条件と、DSLサービスを提供するための接続条件(サービス提供条件)が大きく異なることが原因ではないか。

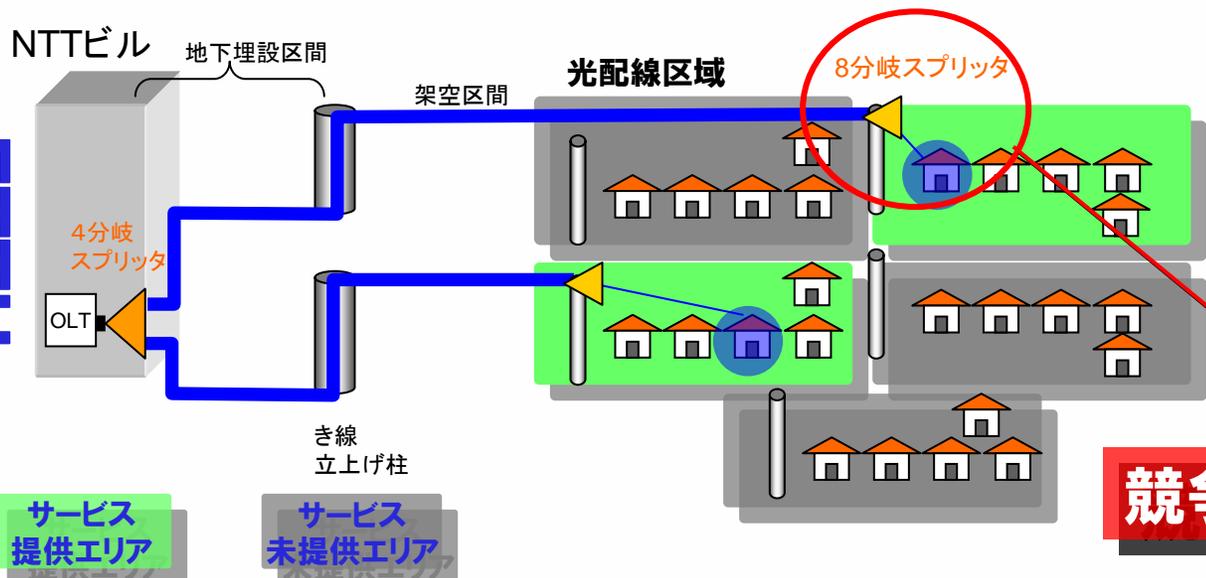
DSL



競争環境が実現

- 基本的にNTTビルに設備をコロケーションすることにより、その局舎に属する**広い配線区域がサービス提供可能エリア**となる。
- メタル(銅線)は**1加入者単位**での接続が可能。

FTTH

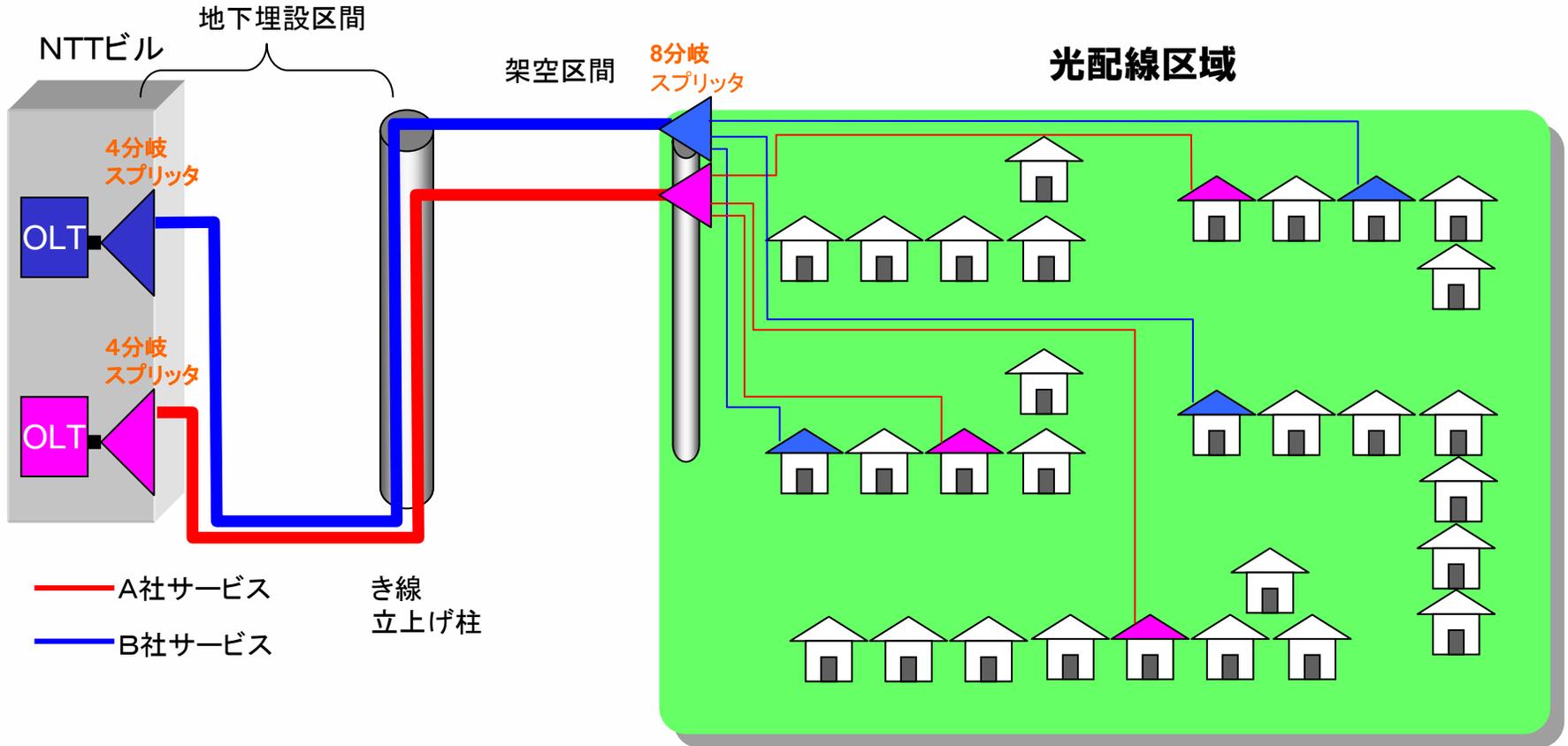


- サービス提供可能エリアは、NTTビルに設備をコロケーションし、**狭い光配線区域しか提供可能エリアにならない**。
- 光ファイバは光配線区域に対して**8加入者単位**での接続。

競争阻害要因が存在？

FTTHにおける競争阻害性の検証

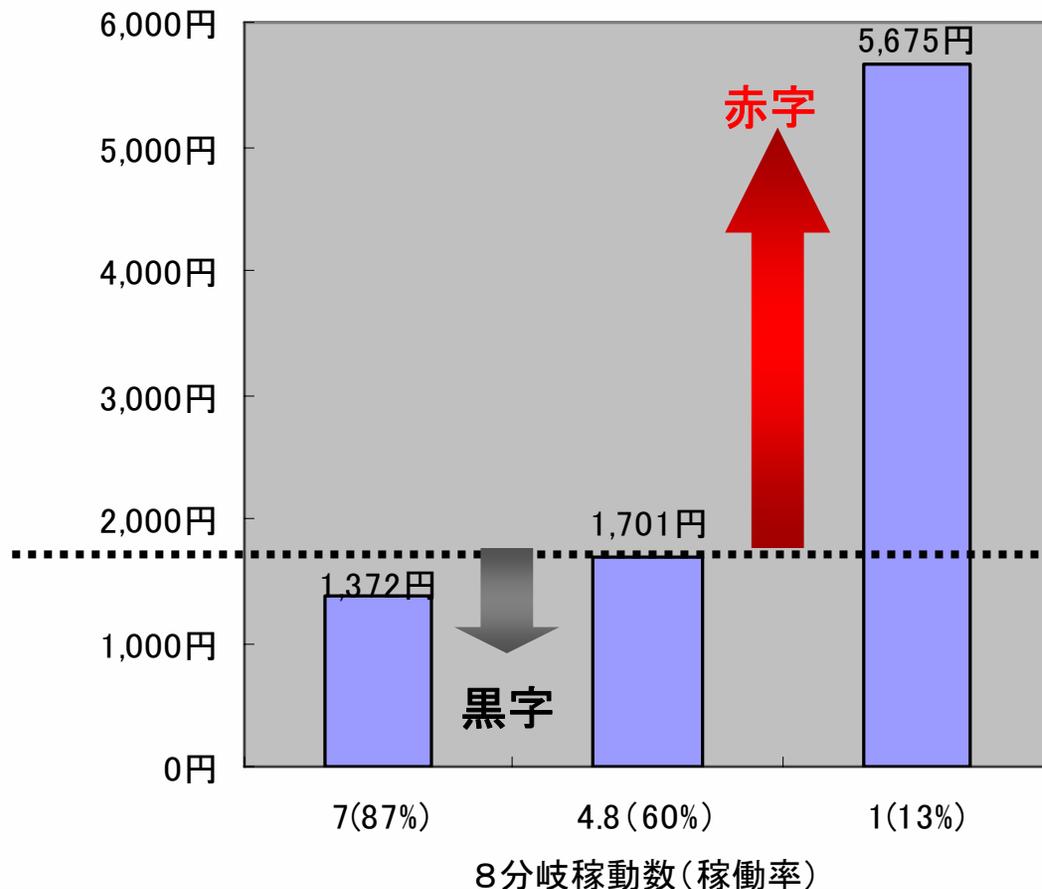
狭い光配線区域内で複数の事業者が競争する場合、顧客が分散し、各事業者の8分岐設備稼働率が向上しない。



参入事業者が増加するほど、個々の稼働率は低下し、コストが増加するため実質的な参入障壁が存在

設備稼働率が低いと1加入者あたりの光ファイバコストが高くなる

1加入者あたりの光ファイバコスト



競争上の採算ライン
 NTT東西の設備稼働率
 (接続料算定、Bフレッツ
 のストックテストにおける
 コスト)
 = 60%(*1)
 1加入者あたり 1,701円

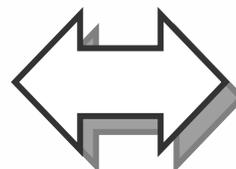
獲得した加入者数によりコストが固定化し、稼働率を確保できない競争事業者は赤字でのサービス提供を強いられるため非競争中立的

(*1) http://www.soumu.go.jp/s-news/2003/030129_4.html

光ファイバは狭い光配線区域内に8分岐単位での接続となるため、
設備稼働率がサービス提供コストに大きく影響する

〔現状〕

稼働率(収容数1/8の場合): **13%**
実質接続料: **5,675円**



〔設備共用した場合〕

稼働率: **88%**
実質接続料: **1,283円**

■ 光ファイバの1光配線区域(30世帯を想定)に
おけるブロードバンド加入世帯: **14加入**

現状

	事業者A	事業者B	事業者C	事業者D
8分岐稼働数	$\frac{7}{8}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{8}$
稼働率	87%	37%	37%	13%
実質接続料	1,372円	1,701円	2,328円	5,675円

設備共用した場合

事業者A+B+C+Dで設備共用

8分岐稼働数	$\frac{8}{8}$	+	$\frac{6}{8}$
稼働率	88%		
実質接続料	1,283円		

参入により個々の稼働率は低下するため、実質的な参入制限

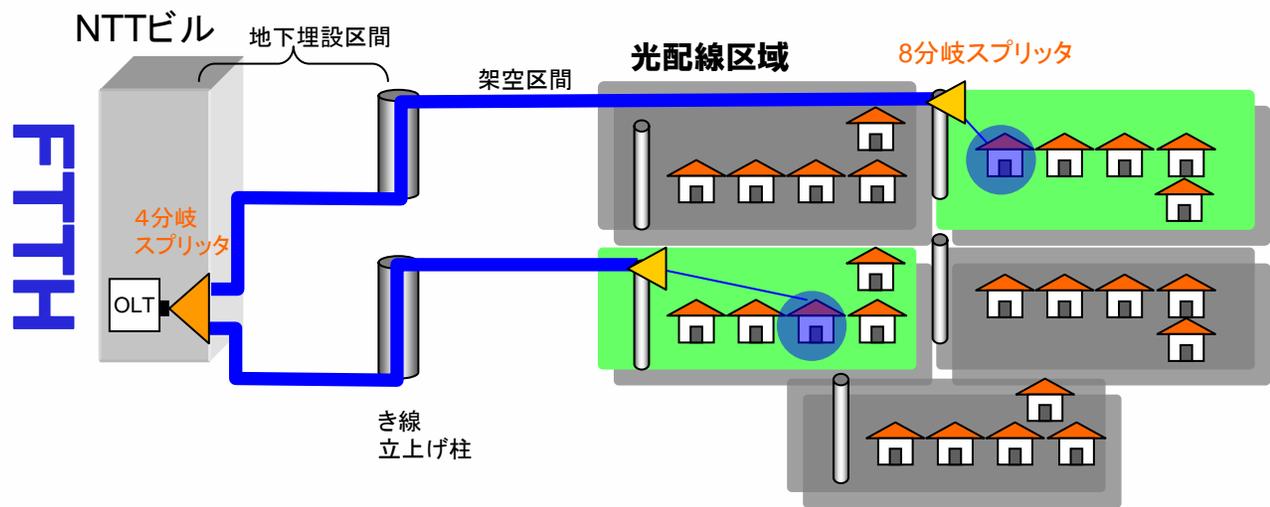
事業者によってコスト格差が固定化し、非競争中立的

参入により稼働率は低下しない

事業者間でコストは同じ競争中立的

現状のFTTH市場は事業者毎に8分岐設備を利用しているため、
構造的に公正競争が行われない状態にある

DSL市場とFTTH市場の競争状況の差異はサービス提供構造の違いによるもの



**光ファイバの8分岐単位での接続及び
狭い光配線区画には、
接続事業者のFTTH市場への参入を阻む
競争阻害性が存在する**